

子どもたちは「分からない」のではなく、「分かるように教えてもらっていない」子どもたちだと考えます。
 教師が「支援を変えれば」、「授業が変わり」、「子どもたちが変わり」ます。
 授業からの逸脱は、「もっと分かるように教えて」「できるように支援して」という「要求行動」だととらえます。
 新しい方法(力)を身につけようとする子どもたちの更なる「チャレンジのための行動」だと考えます。
 授業は「子どもたちが学べる授業」にまだまだ変われます。

○「動線の見直し」のポイント

(村中智彦先生 本校講演記録より)

- ①ムダな動きを省く(機能的な動きであるか)
- ②移動距離を最短距離にする
- ③子ども同士の動線が交差・重複しない
- ④子どもと教師の動線が交差・重複しない
- ⑤期待される活動がわかりやすく自分で行いやすい



はまゆう支援学校では、「分かって動ける授業」作りの柱となる二つの観点を示しています。

注目するのは！
「物」です！

注目するのは！
「環境」です！

『分かって動ける授業』

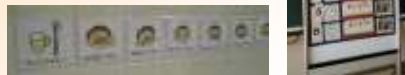
観点1 「授業作りで大切にしている3つのポイント」

(1) 「物」「支援ツール」の充実

人の「手厚い支援」だけに頼るのではなく、「物」「支援ツール」により、子どもたちの活動を支えます。

①「わかる」ための支援

(スケジュール、手順書)



②「動ける」ための支援(自助具、コミュニケーションツール)



(2) 分かって動ける「環境」作り

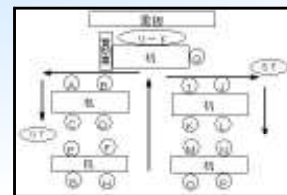
「物」「支援ツール」を含めた、子どもたちを取り巻く支援環境に注目し、「物理的支援環境」「人的支援環境」の整備を進めます。

①物の配置

②能率的で、効率的な動線

③子どもの活動位置

④教師の位置取り・果たす役割



3) できる限りの活動(学習)機会の設定

子どもたちが学習できる機会を増やし、めいっぱい活動できることを目標にします。

これまでの授業では、待ち時間が多く参加機会が少ないため、学習機会や成功体験も少なくなっていました。

授業では「準備」「片づけ」も子どもたちの活動とします。「準備」を自ら行うことで活動への見通しが持てます。

「片づけ」を行うことで活動の終わりが理解でき、次への切り替えがスムーズになります。物事のつながり(文脈)理解を促します。

○「動く」「動き(活動)続ける」
×「聞く」「見る」「すわっている」

○「始めは簡単なことを数多く」
×「正しく」「丁寧に」



観点2 「重層構造の支援手順」



「分かって動ける授業づくり」での支援手順は、まず、「集団全体」「全員」を対象とした支援から始めます。

集団全体への物理的支援、人的支援が適切に行えているかを確認した上で、それでも支援の必要な子どもに「個の応じた」支援を「積み重ね」ます。

(三角形頂点は、個別取り出し型の指導形態を含む高密度な支援を意味します。)

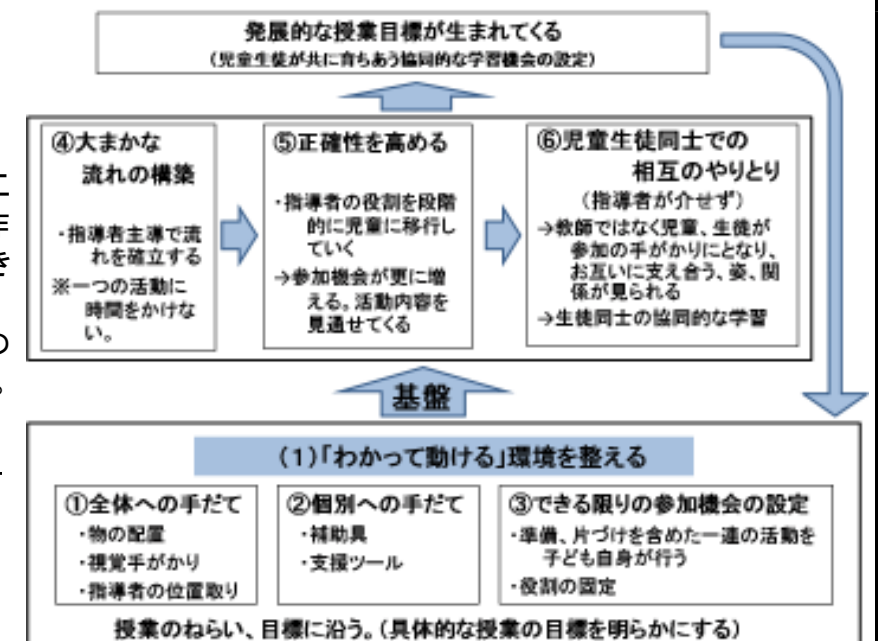
授業から逸脱する子どもがいる場合、どうしても「個」への支援を優先しがちです。しかし、環境が変わらない限り、その子どもは逸脱を繰り返すことになります。

行動問題は、個に起因するだけでなく、環境との相互作用の中で生まれることに注目しています。

○「分かって動ける授業作り」チャート

このようなチャートを用いることで、「分かって動ける授業」作りの手順を確認することができます。

授業の目標を達成し、高めていくサイクルを示しています。



○「わかる」ための支援 以下のようなことが「分かる」ように支援します

「いつするのか」「どこでするのか」「誰とするのか」
 「何をするのか」「どのような手順でするのか」
 「どれだけするのか」「いつまでするのか」「次に何があるのか」

『知的障害や自閉症のある人の暮らしを支える』香川大学教育学部附属養護学校

○「物」支援の有効性 (村中智彦先生 本校講演記録より)

- ・物の有無、物の役割により人の行動は変わる。人の行動は、物や物理的な環境に大きく影響される。
- ・同じ機能を示し続ける「物」での手がかりは理解しやすい。人の働きかけ、支援は曖昧なことが多く、統一されず、混乱を招くことがある。
- ・物を改善することは容易である。(支援者の働きかけの改善は難しいことがある)

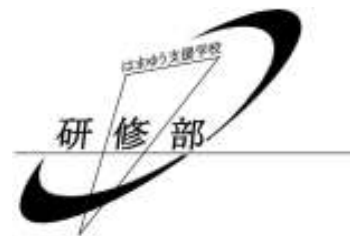
はまゆう支援学校は
『分かって動ける授業作り!』



和歌山県立はまゆう支援学校



はまゆう支援学校は
『分かって動ける授業作り』



全校研修テーマ

「授業改善・分かって動ける授業作り」

～自立的・主体的な授業参加を目指して～

はまゆう支援学校は、平成20年度より
「授業改善・分かって動ける授業作り」
(授業における教授方法の研修)に取り組んでいます。



人の「手厚い支援」だけに頼るのではなく、
「支援ツール」の充実、「環境」の整備を進めることにより、
子どもたちの自立的、主体的な授業参加を生み出します。
そして、たくさんの「活動(学習)機会」を授業の中に設定し、
確実に子どもたちが「学び続け」、
「目標を高めていける」授業作りを目指しています。



平成24年度 公開実践報告会 開催日決定



平成24年10月19日(金)



※日程詳細は、5月初旬以降に本校HPでも紹介します。

649-2102 和歌山県西牟婁郡上富田町岩田2150

TEL. 0739-47-2115 FAX. 0739-47-2620

はまゆう支援学校HP <http://www.hamayuu-sh.wakayama-c.ed.jp/>

(研修部HP「わかごプラス」には上記の「はまゆう支援学校TOPページ」から入ってください)

研修部専用メール kensyu@hamayuu-sh.wakayama-c.ed.jp